



	特徴	メリット
入力	航空写真(直下型、斜め型)および地上写真	有人・無人を問わず、航空または地上プラットフォームからあらゆる角度で撮影された画像を処理します。
	任意のカメラ(コンパクト、一眼レフ、マルチスペクトラル、GoPro)で撮影した.jpg または.tif 画像データ	小型から大判、一般用から特殊カメラまで、任意のカメラで撮影した画像が使用できます。
	同一プロジェクトで複数のカメラに対応	異なるカメラで撮影した画像を用いてプロジェクトを作成し、それらをまとめて処理することができます。
特徴	タイムライン	同じプロジェクトに属するすべてのデータセットを表示・補完します。
	マップビューのダッシュボード	データセットおよびサイトの地理的な位置を表示します。
	2D/3D 設計データオーバーレイツール	2D マップや 3D モデルに設計図を重ね合わせたり、オルソモザイクにプランを重ねて、実際の施工状況と設計通りの状態を比較し、エラーを特定し進捗を追跡します。対応ファイル形式: .dxf, .pdf, .png, .jpg
	2D/3D 比較ツール	分割画面または 2 画面で、異なる日のデータを並べて、2D または 3D ビューで比較できます。
	GCP 自動検出機能	グラウンドコントロール ポイント(GCP)ターゲットの自動マーキングにより、プロジェクトの絶対精度が向上します。
	Pix4D オートタグ	Pix4D オートタグを使用した GCP およびタイピントの自動検出です。PIX4Dcatch からアップロードされたプロジェクトでのみ利用できます。
	テンプレートの選択	必要な出力に応じて異なる処理テンプレートを使用し、画像の処理と出力の生成を最適化します。
	出力座標系の選択	最適なワークフローを保証するために、任意の座標系でプロジェクトを処理します。
	距離と面積の測定	正確な計画の作成のために距離や面積を測定します。注釈として測定値を保存することもできます。
	体積の測定	より正確な敷地調査のため、DSM に基づいた体積測定ができます。
	体積の比較	DSM に基づき体積の経時的な変化を比較できます。
	標高プロファイル	DSM に基づき標高プロファイルを生成します。各点の標高情報が表示されます。
	注釈	違う種類の注釈(マーク、検査、ライン、エリア、円、またはポリゴン)を追加すると、より価値のある実用的な情報を伝えるのに役立ちます。注釈は.csv, GeoJSON, Shapefiles, .dxf などのさまざまなファイル形式でインポートおよびエクスポートできます。
	バーチャル点検機能	3D モデルやその作成に使用された画像上のバーチャルな検査を行えます。特定の画像にズームインしてピン留めし、画像に詳細情報や次のアクションをコメントとして残すことができます。検査結果は注釈として保存できます。
出力	マルチスペクタル処理と NDVI 表示	マルチスペクタル データセットのより高度な分析を実現するための NDVI マップを自動生成します。インデックスのヒストグラムが既定で表示されます。
	共有	注釈、測定値、標高プロファイル、体積、プロジェクトをチームや関係者と共有することで、共同作業やレポート作成に役立てます。
	既存の結果のインポート	オルソモザイクと DSM を.geotiff 形式、点群データを.las および.laz 形式、3D メッシュを.obj ファイル形式でインポートできます。
	BIM モデルのインポート	IFC ファイル形式でインポートして 3D で表示します。
	注釈レポート	すべての注釈(測定値、ポイント、体積、検査内容)を含む包括的な PDF レポートを作成し、簡単に共有および文書化ができます。レポートは、製品が対応しているどの言語でも生成できます。
	2D 出力結果	GeoTiff 形式で出力される直下型オルソモザイクです。
	2.5D 出力結果	.geojson, .csv, .shp 出力形式での 2D ベクトルです。
サポート	3D 出力結果	GeoTiff 出力形式での DSM または DEM です。
	PDF 出力結果	.laz 形式での出力される 3D 点群です。
	PDF 出力結果	.fbx および.obj 形式で出力される 3D テクスチャ メッシュです。
多言語	Trimble Connect	.ply 形式で出力される 3D ガウス スプラッティングです。PIX4Dcatch からアップロードされたプロジェクトでのみ利用できます。
	個人メール	.pdf 形式の GCP レポートです。
	コミュニティ	.pdf 形式の品質レポートです。
	対応言語	.pdf 形式の注釈レポートです。